

| 学 科 名 | | | 普 通 科 | | | | |
|----------------------|--------------|--------------|-------|----------------|------|----------------|------|
| 教 科 | 科 目 | 標 準 単 位 数 | 4 年 | 5 年 | | 6 年 | |
| | | | | 文 | 理 | 文 | 理 |
| 国 語 | 現代の国語 | 2 | 2 | | | | |
| | 言語文化 | 2 | 2 | | | | |
| | 論理国語 | 4 | | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 文学国語 | 4 | | | | | |
| | 国語表現 | 4 | | | | | |
| | 古典探究 | 4 | | 5 | 2 | 3 | 2 |
| | 国語演習 (学) | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 地理歴史 | 地理総合 | 2 | 2 | | | | |
| | 地理探究 | 3 | | 3 ^s | 2 | 4 ^s | 2 |
| | 歴史総合 | 2 | 2 | | 2 | | 2 |
| | 日本史探究 | 3 | | 3 ^s | 2 | 4 ^s | 2 |
| | 世界史探究 | 3 | | 3 ^s | | 4 ^s | |
| 公 民 | 公共 | 2 | 2 | 3 ^s | | | |
| | 倫理 | 2 | | | | 4 ^s | |
| | 政治・経済 | 2 | | | | | |
| 数 学 | 数学Ⅰ | 3 | 3 | | | | |
| | 数学Ⅱ | 4 | 1 | 2 | 3 | 3 | |
| | 数学Ⅲ | 3 | | | 2 | | 4 |
| | 数学A | 2 | 2 | | | | |
| | 数学B | 2 | | 2 | 1 | 1 | 1 |
| | 数学C | 2 | | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 理 科 | 科学と人間生活 | 2 | | | | | |
| | 物理基礎 | 2 | 2 | | | | |
| | 物理 | 4 | | | 4 | | 5 |
| | 化学基礎 | 2 | 2 | 1 | | 2 | |
| | 化学 | 4 | | | 4 | 4 | 5 |
| | 生物基礎 | 2 | 2 | 1 | | 2 | |
| | 生物 | 4 | | | 4 | | 5 |
| | 地学基礎 | 2 | | | | | |
| 保健体育 | 体 育 | 7~8 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 |
| | 保 健 | 2 | 1 | 1 | 1 | | |
| 芸 術 | 音 楽Ⅰ | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 音 楽Ⅱ | 2 | | | | | |
| | 音 楽Ⅲ | 2 | | | | | |
| | 美 術Ⅰ | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 美 術Ⅱ | 2 | | | | | |
| | 美 術Ⅲ | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 工 芸Ⅰ | 2 | | | | | |
| | 工 芸Ⅱ | 2 | | | | | |
| | 工 芸Ⅲ | 2 | | | | | |
| | 書 道Ⅰ | 2 | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 書 道Ⅱ | 2 | | | | | | |
| 書 道Ⅲ | 2 | | | | | | |
| 外 国 語 | 英語コミュニケーションⅠ | 3 | 3 | | | | |
| | 英語コミュニケーションⅡ | 4 | | 4 | 4 | | |
| | 英語コミュニケーションⅢ | 4 | | | | 4 | 4 |
| | 論理・表現Ⅰ | 2 | 3 | | | | |
| | 論理・表現Ⅱ | 2 | | 3 | 2 | | |
| | 論理・表現Ⅲ | 2 | | | | 2 | 2 |
| 家 庭 | 家庭基礎 | 2 | 2 | | | | |
| | 家庭総合 | 4 | | | | | |
| 情 報 | 情報Ⅰ | 2 | | 2 | 2 | | |
| | 情報Ⅱ | 2 | | | | | |
| 理 数 | 理数探究基礎 | 1 | | | | | |
| | 理数探究 | 2~5 | | | | | |
| 宗 教 | 一般仏教 (学) | 1 | 1 | | | | |
| | 宗乗・余乗 (学) | (3) | (2) | (1) | (1) | | |
| 総合的な探究の時間 (実施時間数) | | 3~6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | | | (35) | (35) | (35) | (35) | (35) |
| 科目の単位数の計 | | | 35 | 35 | 35 | 34 | 34 |
| 特別活動 | ホームルーム活動 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 合 計 | | | 36 | 36 | 36 | 35 | 35 |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 国語 | 科目 | 文学国語 | 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 5年文理共通 |
|------------|---|----|------|--|-----|------|--------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・より深い漢字や語彙に関する知識を習得し、それをを用いて、自己の考えを表現する能力を身につける。近現代の様々な文章を的確に読み取る能力を高めるとともに、文章読解を通じてものの見方、感じ方、考え方を深め、自分を取り巻く社会や環境あるいは国際社会に対して問題意識を持ちつつ生き抜く力を養う。 ・より多くの書物に触れることで、人間存在や社会への洞察力を身につける。 | | | | | | |
| 評価の観点・価値基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字や現代用語などの語彙や社会的な知識を体得し、自己のものとするのができたか。〈知識・技能〉 ・近現代の文章を読みこなすことで、読解力や思考力を身につけるのができたか。〈思考力・判断力・表現力〉 ・自己の思いや考えを適切に話すあるいは書くといった表現力を身につけるのができたか。〈思考力・判断力・表現力〉 ・様々な国や地域の文化や伝統に対する関心を深め、広く社会に対する問題意識を持つのができたか。〈主体的に取り組む態度〉 ・多くの書物に触れる中で、国語を尊重してその向上を図り、言語文化に対する関心を深めたか。〈主体的に取り組む態度〉 | | | | | | |
| 使用教材 | 文学国語（筑摩書房） 〈副教材〉完成現代文（尚文出版） | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 情報の彫刻（原研哉） バイリンガリズムの政治学（今福龍太） 山月記（中島敦） | | | <ul style="list-style-type: none"> ・評論文における着眼点を掴み、抽象度の高い文章を読み解く。 ・筆者の考え方が現代社会でどのように受け止められるかを考え、筆者の考えと自分自身の考えとの相違点について考える。 ・優れた文学作品を読み味わい、登場人物の複雑な心情を本文中の記述をもとにして読み取る。 | | | |
| 2 | 実体の美と状況の美（高階秀爾） 記号論と生のリアリティ（立川健二） ころも（夏目漱石） 死者の声を運ぶ小舟（小川洋子） 論語—私の古典（高橋和巳） | | | <ul style="list-style-type: none"> ・文章表現の巧みさを味わうとともに、筆者の取り上げる主題について考えを深める。 ・文章全体の構成を捉えつつ、論の展開や、その発展の仕方を理解し、日常を異化する考え方を学ぶ。 ・人間存在に対する洞察力を深め、自己の生き方を問う姿勢を養う。 | | | |
| 3 | 化物の進化（寺田寅彦） 文学の仕事（加藤周一） 捨てない女（多和田葉子） | | | <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章の論理展開を把握するだけでなく、そこに込められた筆者の者の見方・考え方を学び、人間や社会について考え、新しい世界観や視野の獲得を図る。 ・最終学年の学習を意識した学習計画を立てる。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の文章に触れ、興味関心を持つことで、社会的な問題意識を喚起する。 ・副教材等を活用し、教科書本文の関連事項に加え、より発展的な学習を進める。 ・大学入試を見据え、様々な形式の問題に触れ、演習を行う。 ・語彙力の強化のため、漢字や語彙の小テスト、速読演習を行う。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 国語 | 科目 | 国語演習 | 単位数 | 1 単位 | 履修学年 | 5 年文理 |
|------------|---|----|------|---|------|------|-------|
| 到達目標 | <p>【文系】近現代の様々な文章を的確に読み取る能力を高めるとともに、文章読解を通じてものの見方、感じ方、考え方を深め、人間存在や社会への洞察力を身に付ける。</p> <p>【理系】先人の作品を読み、そのものの見方や感じ方に触れることにより、自己の視野や世界観を広げ、豊かな人生を獲得するための素地を獲得する。さまざまな古典文献や他者の文章を読み解く力を育成しながら、古典文化や伝統に対する知識や理解を深め、文化や社会のあり方を探究する。</p> | | | | | | |
| 評価の観点・価値基準 | <p>【文系】・漢字や様々な表現などの語彙や社会的な知識を体得し、自己のものとする事ができる。〈知識・技能〉</p> <p>・近現代の文章を読みこなすことで、読解力や思考力を身に付けることができる。また自己の思いや考えを適切に話すあるいは書くといった表現力を身に付けることができる。〈思考力・判断力・表現力〉</p> <p>・様々な国や地域の文化や伝統に対する関心を深め、広く社会に対する問題意識を持つことができる。〈主体的に取り組む態度〉</p> <p>【理系】・古典の語彙や基本的な文法・古典知識を習得することができた。〈知識・技能〉</p> <p>・得た知識により正確に読解して思考する力を身につけ、先品の鑑賞を通して文化や伝統・風俗・習慣にも目を向け、現代の日本文化との関連性について考察したことを表現することができた。〈思考力・判断力・表現力〉</p> <p>・日本文化の歴史的展開を理解することを契機に、それを世界とのつながりにおいて捉え直し、世界文化の中の日本文化について自ら再認識することができた。〈主体的に取り組む態度〉</p> | | | | | | |
| 使用教材 | <p>文学国語（筑摩書房） 古典探究 漢文編（桐原書店） 〈副教材〉新明説漢文（尚文出版）、漢文読本（大修館）他</p> | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | <p>【文系】 神様（川上弘美） メディアと倫理 【理系】 漢文 画竜点睛・漱石枕流・病入膏肓・梁上君子・杞憂・ 春夜宴桃李園序・桃花源記・師説</p> | | | <p>【文系】小説に描かれた登場人物の心情やその推移を把握するとともに、自己の問題として捉え思考する姿勢を養う。 評論文における着眼点を掴み、抽象度の高い文章を読み解く。 【理系】漢文の読解を通して中国の思想家や文章家のものの見方を味わい、現代の日本やアジア圏の価値観と比較考察する。 漢文の基本構文を復習する。</p> | | | |
| 2 | <p>【文系】 私の個人主義（夏目漱石） 未来をつくる言葉（ドミニク・チェン） 【理系】 漢文：近体詩・史記</p> | | | <p>【文系】日本を代表する文豪の文章を読むことを通して、作品の成り立ちを含めた立体的な読みを構築する。また、人間存在に対する洞察力を深め、自己の生き方を問う姿勢を養う。 【理系】漢詩の規則を理解し、漢詩に表現された詩人の価値観や自然観を味わう。</p> | | | |
| 3 | <p>【文系】 魂込め（目取真俊） 【理系】 漢文：思想</p> | | | <p>【文系】小説の展開を把握するだけでなく、そこに込められた作者の物の見方や考え方を学び、人間や社会について考え、新しい世界観や視野の獲得を図る。 【理系】諸子百家の思想について学び、現代と比較考察するとともに、比喩に注目し、読解につなげる。</p> | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・副教材やプリント教材を活用し、より発展的な学習を進める。 ・家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 ・漢文句形の小テストを実施し、知識の定着を目指す。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 国語 | 科目 | 古典探究（古文・古典講読・漢文） | 単位数 | 5単位 | 履修学年 | 5年文系 |
|------------|--|----|------------------|---|-----|------|------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 先人の作品を読み、そのものの見方や感じ方に触れることにより、自己の視野や世界観を広げ、豊かな人生を獲得するための素地を獲得する。 古典文化や伝統に対する知識や理解を深め、文化や社会のあり方を探究する。 さまざまな古典文献や他者の文章を読み解く力を育成する。 | | | | | | |
| 評価の観点・価値基準 | <ul style="list-style-type: none"> 古典の語彙や基本的な文法・古典知識を習得することができた。〈知識・技能〉 得た知識により正確に読解して思考する力を身につけ、先品の鑑賞を通して文化や伝統・風俗・習慣にも目を向け、現代の日本文化との関連性について考察したことを表現することができた。〈思考力・判断力・表現力〉 日本文化の歴史的展開を理解することを契機に、それを世界とのつながりにおいて捉え直し、世界文化の中の日本文化について自ら再認識することができた。〈主体的に取り組む態度〉 | | | | | | |
| 使用教材 | 古典探究 古文編・漢文編（桐原書店）、源氏物語・大鏡・評論（文英堂） 〈副教材〉新明説総合古典文法（尚文出版）、新明説漢文（尚文出版）、漢文読本（大修館）他 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 【古文】 物語 伊勢物語・大和物語 随筆 枕草子 【漢文】 画竜点睛・漱石枕流・病入膏肓・梁上君子・杞憂・春夜宴桃李園序・桃花源記・師説 【古典講読】 大鏡 | | | 文章の構成や展開に注目しながら、登場人物の心情を読み解く。 和歌の修辞法・古文の敬語について理解する。 漢文の読解を通して中国の思想家や文章家のものの見方を味わい、現代の日本やアジア圏の価値観と比較考察する。 漢文の基本構文を復習する。 | | | |
| 2 | 【古文】 物語 平家物語・大鏡 日記 更級日記 【漢文】 近体詩・史記 【古典講読】 源氏物語 | | | 軍記物語、歴史物語や日記文の鑑賞を通して、自然や人間・社会に対する古代人の感性や思想に触れ、自己の感性を豊かにする。 古文に登場する人物の心情の推移を読み味わう。 古典文法を確認し、紛らわしい語の識別ができるようになり、正確に文意を把握できるようにする。 漢詩の規則を理解し、漢詩に表現された詩人の価値観や自然観を味わう。 | | | |
| 3 | 【古文】 物語 源氏物語 和歌 万葉集・古今集・新古今集 近世文学 雨月物語 【漢文】 思想 【古典講読】 評論 | | | 歴史物や軍記物のリズム感や筆致を楽しみ、口承ならではの工夫について考察し、自己表現における工夫につなげる。 三大歌集の違いについて味わい、理解する。 諸子百家の思想について学び、現代と比較考察するとともに、比喩に注目し、読解につなげる。 近世文学の鑑賞を通して、自然や人間・社会に対する古代人の感性や思想に触れ、自己の感性を豊かにする。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 副教材やプリント教材を活用し、より発展的な学習を進める。 家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 古典単語・古典文法・漢文語彙・漢文句形の小テストを実施し、知識の定着を目指す。 週末課題などを通し、知識の定着と応用力の構築を目指す。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 国語 | 科目 | 古典探究 | 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 5年理系 |
|------------|---|------------------------------|------|---|-----|------|------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・先人の作品を読み、そのものの見方や感じ方に触れることにより、自己の視野や世界観を広げ、豊かな人生を獲得するための素地を獲得する。 ・古典文化や伝統に対する知識や理解を深め、文化や社会のあり方を探究する。 ・さまざまな古典文献や他者の文章を読み解く力を育成する。 | | | | | | |
| 評価の観点・価値基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典の語彙や基本的な文法・古典知識を習得することができた。〈知識・技能〉 ・得た知識により正確に読解して思考する力を身につけ、先品の鑑賞を通して文化や伝統・風俗・習慣にも目を向け、現代の日本文化との関連性について考察したことを表現することができた。〈思考力・判断力・表現力〉 ・日本文化の歴史的展開を理解することを契機に、それを世界とのつながりにおいて捉え直し、世界文化の中の日本文化について自ら再認識することができた。〈主体的に取り組む態度〉 | | | | | | |
| 使用教材 | 古典探究 古文編（桐原書店） 〈副教材〉新明説総合古典文法（尚文出版）他 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 物語 随筆 | 伊勢物語・大和物語 枕草子 | | 文章の構成や展開に注目しながら、登場人物の心情を読み解く。 和歌の修辞法・古文の敬語について理解する。 | | | |
| 2 | 物語 日記 | 平家物語・大鏡 更級日記 | | 軍記物語、歴史物語や日記文の鑑賞を通して、自然や人間・社会に対する古代人の感性や思想に触れ、自己の感性を豊かにする。 古文に登場する人物の心情の推移を読み味わう。 古典文法を確認し、紛らわしい語の識別ができるようになり、正確に文意を把握できるようにする。 | | | |
| 3 | 物語 和歌 近世文学 | 源氏物語 万葉集・古今集・新古今集 雨月物語 | | 歴史物や軍記物のリズム感や筆致を楽しみ、口承ならではの工夫について考察し、自己表現における工夫につなげる。 三大歌集の違いについて味わい、理解する。 近世文学の鑑賞を通して、自然や人間・社会に対する古代人の感性や思想に触れ、自己の感性を豊かにする。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・副教材やプリント教材を活用し、より発展的な学習を進める。 ・家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 ・古典単語・古典文法の小テストを実施し、知識の定着を目指す。 ・週末課題などを通し、知識の定着と応用力の構築を目指す。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 | 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 5年文系 |
|------------|--|----|-------|--|-----|------|------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | | | |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史』（浜島書店） ・副教材『新日本史要点ノート標準編』（啓隆社） | | | | | | |
| 1 | 第1章 日本文化のあけぼの | | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における文化の発生について、自然環境などと関連付けて考えさせる。 ・海外から伝来した農耕や諸文化が、日本社会に与えた影響を理解させる。 ・律令国家の成立過程と、その変質の様子を理解させる。 ・貴族の生活と、地方における農民の成長を関連付けながら理解させる。 | | | |
| | 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 | | | | | | |
| | 第2章 古墳とヤマト政権 | | | | | | |
| 2 | 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・武士の勢力が台頭し、平氏政権から鎌倉幕府へと武家政権が成立していく過程を理解させる。 ・貨幣経済の進展とモンゴル襲来が、鎌倉幕府と武家社会に与えた影響を理解させる。 ・庶民の台頭に注目して、一揆・惣村・下剋上など、中世社会の多様な事象を理解させる。 ・公家・武家・庶民の文化が融合し、今日の日本文化の基礎が築かれたことを理解させる。 | | | |
| | 第3章 律令国家の形成 | | | | | | |
| | 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 | | | | | | |
| 3 | 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 | | | |
| | 第4章 貴族政治の展開 | | | | | | |
| | 1. 摂関政治 2. 国風文化 | | | | | | |
| 3 | 3. 地方政治の展開と武士 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 | | | |
| | 第5章 院政と武士の躍進 | | | | | | |
| | 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 | | | | | | |
| 3 | 第6章 武家政権の成立 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 | | | |
| | 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 | | | | | | |
| | 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化 | | | | | | |
| 3 | 第7章 武家社会の成長 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 | | | |
| | 1. 室町幕府の成立 | | | | | | |
| | 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 | | | | | | |
| 3 | 3. 室町文化 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 | | | |
| | 4. 戦国大名の登場 | | | | | | |
| | 第8章 近世の幕開け | | | | | | |
| 3 | 1. 織豊政権 2. 桃山文化 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 | | | |
| | 第9章 幕藩体制の成立と展開 | | | | | | |
| | 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 | | | | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史探究 | 単位数 | 3 単位 | 履修学年 | 5 年文系 |
|----------------------------|---|----|-------|--|------|------|-------|
| 到達 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年での歴史総合の学習を踏まえ、6年に継続される世界史の学習を通して、現代世界の形成の世界史的過程と特色について理解させる。 ・ 世界の諸地域の文化の多様性と相互交流を広い視野から考察させる。 ・ 歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 ・ 現代社会が直面する諸課題について歴史的観点に立ち解決方法を見いだす力を養う。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で扱っている範囲・テーマに対して関心を持ち、意欲的態度で授業に臨んでいるか。 ・ 各範囲の学習内容を全体的・構造的視野から理解し、基本的知識を身につけているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的事象について考察し、判断しているか。 ・ 副教材や教科書等の諸資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時代や地域の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 ・ 授業・課題提出・定期考査などを通して、以上の観点から評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 『詳説 世界史』 山川出版社 ・ 副教材 『最新世界史図説タペストリー』 帝国書院 ・ 副教材 『要点ノート』 啓隆社 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 世界史へのまなざし 1・2 第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 文明の成立と古代文明の特質 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の誕生から文明の成立にいたるまでの先史時代を概観し、獲得経済・国家の形成に至る過程を認識させる。 ・ 両地域世界の特質を気候・地形などと関連させて捉えるとともに、ヨーロッパ世界の原型となることを知る。 ・ 独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を理解させ、同時に他地域への影響もつかませる。 ・ 乾燥した北と湿潤な南という二つの農耕世界を漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを理解させる。 ・ 遊牧民とオアシス民が共存するこの世界が諸地域をつなぎ、その役割を担った騎馬遊牧民への理解を深める。 ・ 北方民族の活発化と中国の分裂により、大きく変容した東アジア世界の状況を総合的に捉える。 | | | |
| 2 | 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市を背景に生まれたイスラームが、アジア・アフリカの各地に広がり新しい文明を築く様相を捉える。 ・ 西ヨーロッパ世界の形成を教会・封建社会などを軸にして確認する。また、ビザンツ世界がスラヴ社会へ影響を及ぼしていったことを理解させる。 ・ 清・オスマン帝国などのイスラーム諸王朝が、柔軟な統治体制で独自の文明を繁栄させたことを理解させる。 | | | |
| 3 | 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章 大交易・大交流の時代 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ モンゴル帝国がユーラシアの農耕・牧畜両世界を政治的にも統合し世界帝国を築き上げたことを理解する。 ・ アジア地域の繁栄が近代世界システムの枠組みと関わり、もたらされていることを理解する。 ・ 大航海時代に象徴される世界の一体化が近代世界システムを出現させたこと、それに伴う各国の国情を理解する。 | | | |
| 学習 上の 留意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の暗記に終止せず、グラフや図の読み取りなど、様々な角度から知識の定着をはかる。 ・ 各地域世界の特質を構造的視野から把握させるとともに、人類への寄与と課題について理解させる。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理探究 | 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 5年文系 |
|------------|---|----|------|---|-----|------|------|
| 到達目標 | <p>① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。</p> <p>② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。</p> <p>③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。</p> | | | | | | |
| 評価の観点・評価規準 | <p>【知識・技能】</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。</p> <p>○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</p> | | | | | | |
| | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p> | | | | | | |
| | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。</p> | | | | | | |
| 評価の方法 | <p>○年5回実施の定期考査では、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考力・判断力・表現力を評価する。</p> <p>○課題学習で提出されるレポートを評価のための資料とする。</p> <p>○日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とする。</p> <p>○評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行うものとする。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | <p>東京書籍「地理探究」（地探701） 帝国書院「新詳高等地図」（地図310）</p> <p>副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2023」</p> | | | | | | |
| 1 | <p>第1編 現代世界の系統地理的考察</p> <p>第1章 自然環境</p> <p>第1節 世界の地形</p> <p>第2節 気候と自然環境</p> <p>第3節 気候と人々の生活</p> <p>第4節 日本の自然環境</p> | | | <p>プレートの運動とさまざまな境界</p> <p>変動帯の地形 安定陸塊（安定地塊）の地形</p> <p>大気大循環と気候 世界の植生・土壌</p> <p>ケッペンの気候区分 各気候区ごとの生活の特色</p> | | | |

| | | |
|---------|---|--|
| 2 | <p>第2章 産業と資源</p> <p>第1節 産業の発展と社会的分業</p> <p>第2節 農林水産業</p> <p>第3節 食料問題</p> <p>第4節 エネルギーと鉱産資源</p> <p>第5節 資源・エネルギー問題</p> <p>第6節 工業の立地と変容</p> <p>第7節 第3次産業</p> <p>第4章 人口, 村落・都市</p> <p>第2節 人口問題</p> <p>第3節 村落・都市</p> <p>第4節 居住・都市問題</p> <p>第5章 生活文化, 民族・宗教</p> <p>第3節 民族問題</p> <p>第4節 現代の国家と領土問題</p> | <p>産業の変遷 産業構造と地域構造</p> <p>農業の立地と形態 世界のさまざまな農業地域</p> <p>グローバル化と農業地域の変容 林業・水産業</p> <p>食料問題の背景と地域性 食料問題の解決に向けて</p> <p>世界のエネルギー需要 化石燃料 電力生産 金属資源</p> <p>化石燃料への依存と国家間の対立 再生可能エネルギー</p> <p>工業の立地と工業地域 グローバル化と工業地域の再編</p> <p>サービス経済化の進展と流通産業の発達 医療・福祉産業の課題</p> <p>発展途上国の人口問題 先進国の人口問題</p> <p>村落の機能と形態 都市の機能と都市システム</p> <p>都市の内部構造と大都市圏</p> <p>発展途上国の居住・都市問題 先進国の居住・都市問題</p> <p>日本の居住・都市問題</p> <p>世界の多様な民族問題 紛争と難民</p> <p>領土問題の要因と解決への取り組み</p> |
| 3 | <p>第2編 現代世界の地誌的考察</p> <p>第2章 現代世界の諸地域</p> <p>第1節 東アジア</p> <p>第2節 東南アジア</p> <p>第3節 南アジア</p> | <p>地域の考察方法</p> <p>中国の改革開放と急速に進む工業化 農村の近代化と都市化</p> <p>環境問題, 格差問題などの課題</p> <p>東南アジアの多様な文化 国家間の格差 ASEAN</p> <p>グローバル化と南アジアの経済発展 南アジア世界の多様性と統一性</p> |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理総合で取り扱った内容は復習にとどめる。 ・ 基礎的知識の徹底をはかる。 ・ 各地域世界の特徴を知るとともに, 世界における日本の位置を把握させる。 ・ 講義式の学習形態だけでなく, 発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し, 生徒自身の授業への積極的参加を求めている。 | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 公民 | 科目 | 公共 | 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 5年文系 |
|------------|---|----|----|--|-----|------|------|
| 到達目標 | 現実社会の諸課題に関わる具体的な主題について、必要な知識・技能を身に付け、その解決策を考察する。日本の政治や経済のしくみを学び、社会生活に結びつけて、課題や改善点などを考察する。これまでに学んだことも含め、倫理、社会、政治、法、経済、国際関係などの諸課題に対する主体的な意見をもてるように努める。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 基本的な用語を理論的、体系的に理解すると同時に、その語句を自らの言葉で説明し、議論などに正しく使うことができているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 データをグラフや表などからしっかりと読みとり、客観的にそれを理解し、自分の体験などを振り返りながら、自分なりの意見につなげることができるか。そしてそれを正しい知識や表現を使いながら、客観的に伝えることができているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に取り組む態度】 一方通行の授業を受けるのではなく、発問等に対し、他者の判断に流されるのではなく、自分なりの意見を持つことができているか。また一つの判断に固執せず、様々な意見を聴きながら多面的に考察し、積極的に新しい発想で物事を考えようとしているか。 | | | | | | |
| 使用教材 | 詳述公共（実教出版） 最新公共資料集2022（第一学習社） | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第2章 日本の政治機構と政治参加 3 地方政治 4 選挙と政党 5 政治参加と世論 第3章 現代の経済社会 1 経済社会の形成と変容 2 市場のしくみ 3 現代の企業 4 経済成長と景気変動 | | | 日本の政治機構がどのような仕組みとなっているのかを理解し、政治を実行していく働きを学ぶ。 選挙の仕組みやあり方、課題などを理解し、近い将来の主権者としての自覚を深める。 経済のしくみや基礎を学び、技術革新や市場経済、経済指標などについて理解し、マクロ経済の基礎を理解する。 | | | |
| 2 | 5 金融機関の働き 6 政府の役割と財政・租税 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題 2 中小企業と農業 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題 5 労働問題と雇用 6 社会保障 第5章 国際政治の動向と課題 1 国際社会における政治と法 2 国家安全保障と国際連合 3 冷戦終結後の国際政治 | | | 金融・日本銀行・財政・戦後日本経済を学び、さらに消費者の経済活動について理解し、ミクロ経済の基礎を理解する。 日本経済の近年の課題である中小企業や農業、公害と環境、消費者問題、労働問題、社会保障などについて学び、課題解決を考える。 国際政治や国際連合組織、さらに安全保障体制関連を学び、国際政治において国際平和につながる考えを養う。 | | | |
| 3 | 4 軍備競争と軍備縮小 5 異なる人種・民族との共存 6 国際平和と日本 第6章 国際経済の動向と課題 1 国際経済のしくみ 2 国際経済体制の変化 3 経済のグローバル化と金融危機 4 地域経済統合と新興国 5 ODA と経済協力 | | | 軍事拡張・縮小や民族間紛争などを学び、理解し、国際平和を考える。 国際経済のしくみを学び、国際経済の課題から国際理解に努める。また、グローバル化の中での国際対応を考え、国際的視野を広げる。 | | | |
| 学習上の留意点 | 一方的な知識伝達型の授業にならないように留意する。 ニュースなどを学習上では随意取り上げ、机上の学習ではなく、現実の理解をうながすものであることを教師が心掛け、生徒へも意識付けをさせる。 議論の中においては、異なる意見であったとしても、それを一方的に否定するのではなく、その考えに至った理由などを理解させることにより多角的に考え、より自分の意見を深化させていくことができるような指導を心がける。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 | 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 5年理系 |
|------------|---|----|-------|--|-----|------|------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 | | | | | | |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史』（浜島書店） ・副教材『新日本史要点ノート標準編』（啓隆社） | | | | | | |
| 1 | 第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の展開と武士 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における文化の発生について、自然環境などと関連付けて考えさせる。 ・海外から伝来した農耕や諸文化が、日本社会に与えた影響を理解させる。 ・律令国家の成立過程と、その変質の様子を理解させる。 ・貴族の生活と、地方における農民の成長を関連付けながら理解させる。 | | | |
| 2 | 第5章 院政と武士の躍進 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立 2. 武士の社会 3. モンゴル襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化 第7章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・武士の勢力が台頭し、平氏政権から鎌倉幕府へと武家政権が成立していく過程を理解させる。 ・貨幣経済の進展とモンゴル襲来が、鎌倉幕府と武家社会に与えた影響を理解させる。 ・庶民の台頭に注目して、一揆・惣村・下剋上など、中世社会の多様な事象を理解させる。 ・公家・武家・庶民の文化が融合し、今日の日本文化の基礎が築かれたことを理解させる。 ・幕府の権威が低下し、台頭した戦国大名同士が戦闘を行うようになったことを理解させる。 | | | |
| 3 | 第8章 近世の幕開け 1. 織豊政権 2. 桃山文化 第9章 幕藩体制の成立と展開 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 5. 元禄文化 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一円支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 ・幕藩体制が整備されるとともに、日本社会に安定がもたらされたことを理解させる。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理探究 | 単位数 | 2 単位 | 履修学年 | 5 年理系 |
|------------|---|----|------|---|------|------|-------|
| 到達目標 | <p>① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。</p> <p>② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。</p> <p>③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。</p> | | | | | | |
| 評価の観点・評価規準 | <p>【知識・技能】</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。</p> <p>○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</p> | | | | | | |
| | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p> | | | | | | |
| | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。</p> | | | | | | |
| 評価の方法 | <p>○年5回実施の定期考査では、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考力・判断力・表現力を評価する。</p> <p>○課題学習で提出されるレポートを評価のための資料とする。</p> <p>○日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とする。</p> <p>○評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行うものとする。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | <p>東京書籍「地理探究」（地探701） 帝国書院「新詳高等地図」（地図310）</p> <p>副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2023」</p> | | | | | | |
| 1 | <p>第1編 現代世界の系統地理的考察</p> <p>第1章 自然環境</p> <p>第1節 世界の地形</p> <p>第2節 気候と自然環境</p> <p>第3節 気候と人々の生活</p> <p>第4節 日本の自然環境</p> | | | <p>プレートの運動とさまざまな境界</p> <p>変動帯の地形 安定陸塊（安定地塊）の地形</p> <p>大気大循環と気候 世界の植生・土壌</p> <p>ケッペンの気候区分 各気候区ごとの生活の特色</p> | | | |

| | | |
|---------|--|---|
| 2 | <p>第2章 産業と資源</p> <p>第1節 産業の発展と社会的分業</p> <p>第2節 農林水産業</p> <p>第3節 食料問題</p> <p>第4節 エネルギーと鉱産資源</p> <p>第5節 資源・エネルギー問題</p> <p>第6節 工業の立地と変容</p> <p>第7節 第3次産業</p> | <p>産業の変遷 産業構造と地域構造</p> <p>農業の立地と形態 世界のさまざまな農業地域</p> <p>グローバル化と農業地域の変容 林業・水産業</p> <p>食料問題の背景と地域性 食料問題の解決に向けて</p> <p>世界のエネルギー需要 化石燃料 電力生産 金属資源</p> <p>化石燃料への依存と国家間の対立 再生可能エネルギー</p> <p>工業の立地と工業地域 グローバル化と工業地域の再編</p> <p>サービス経済化の進展と流通産業の発達 医療・福祉産業の課題</p> |
| 3 | <p>第4章 人口、村落・都市</p> <p>第2節 人口問題</p> <p>第3節 村落・都市</p> <p>第4節 居住・都市問題</p> <p>第5章 生活文化、民族・宗教</p> <p>第3節 民族問題</p> <p>第4節 現代の国家と領土問題</p> | <p>発展途上国の人口問題 先進国の人口問題</p> <p>村落の機能と形態 都市の機能と都市システム</p> <p>都市の内部構造と大都市圏</p> <p>発展途上国の居住・都市問題 先進国の居住・都市問題</p> <p>日本の居住・都市問題</p> <p>世界の多様な民族問題 紛争と難民</p> <p>領土問題の要因と解決への取り組み</p> |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理総合で取り扱った内容は復習にとどめる。 ・ 基礎的知識の徹底をはかる。 ・ 各地域世界の特徴を知るとともに、世界における日本の位置を把握させる。 ・ 講義式の学習形態だけでなく、発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し、生徒自身の授業への積極的参加を求めている。 | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 II | 単位数 | 2 単 位 | 履修学年 | 5 年 文 系 |
|----------------------------|---|----|--------|--|-------|------|---------|
| 到達 目標 | 図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基本的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書：数研出版「数学Ⅱ」 副教材：数研出版「4STEP 数学Ⅱ」「チャート式基礎からの数学Ⅱ」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 2 | 数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 | | | 2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線との距離を求めたりできるようにする。 円の方程式について学び、円と円、円と直線との位置関係を調べることができるようにする。また、円の接線の方程式を求めることができるようにする。 与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等式で表された領域を図示できるようにする。 弧度法の考え方を理解し、角の大きさを弧度法で表現できるようにする。また、三角関数の周期性について学び、簡単な三角関数のグラフがかけられるようにする。さらに、三角関数の相互関係の公式を理解し、グラフや公式を利用して三角方程式や三角不等式が解けるようにする。 三角関数の加法定理を理解し、それを応用して、倍角、半角、積と和の変換公式、合成の式を使えるようにする。 | | | |

| | | |
|---------|---|---|
| | <p>数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数</p> <p>第2節 対数関数</p> | <p>指数の拡張と指数法則について理解し、計算ができるようにする。また、指数関数の特徴と性質について理解し、そのグラフがかけられるようにする。</p> <p>対数の意味と性質について理解し、計算ができるようにする。また、対数関数の特徴と性質について理解し、そのグラフがかけられるようにする。</p> |
| 3 | <p>数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分法</p> | <p>平均変化率や微分係数の意味を図形的意味も含めて理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を求めることができるようにする。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフがかけられるようにする。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について調べることができるようにする。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を学び、整関数の不定積分を求めることができるようにする。また、定積分の定義を理解し、その計算ができるようにする。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積を求める方法を学び、面積を計算できるようにする。</p> |
| 学習上の留意点 | <p>授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。</p> <p>問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p> | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 B | 単位数 | 2 単 位 | 履修学年 | 5 年 文 系 |
|----------------------------|---|----|-------|---|-------|------|---------|
| 到達 目標 | 数列及び統計的な推測について理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書：数研出版「数学B」 副教材：数研出版「4STEP 数学B」「チャート式基礎からの数学B」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 数学B 第1章 数列 第1節 数列とその和 | | | 数列の概念や数列に関する用語の意味を理解する。また、等差数列や等比数列の定義を理解し、その一般項や和を求めることができるようにする。さらに、 Σ 記号の意味を理解し、いろいろな数列の和を Σ を使って表し、求めることができるようにする。 次に、階差数列の定義を理解し、階差数列の一般項を利用して、いろいろな数列の一般項を求めることができるようにする。 | | | |
| 2 | 第2節 数学的帰納法 | | | 数列の帰納的な定義及び漸化式の意味について理解する。また、漸化式で定められた数列の一般項を求めることができるようにする。さらに、数学的帰納法の考え方を利用して、自然数に関するいろいろな命題を証明することができるようにする。 | | | |
| 3 | 数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測 | | | 標本調査の考え方について理解を深め、確率変数・確率分布・二項分布・正規分布の性質や特徴について理解する。また、確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察できるようにする。 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。また、目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標 | | | |

| | |
|---------|---|
| | 本調査の方法や結果を批判的に考察できるようにする。 |
| 学習上の留意点 | <p>授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。</p> <p>問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p> |

科目の年間授業計画 (シラバス)

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 C | 単位数 | 1 単 位 | 履修学年 | 5 年 文 系 |
|----------------------------|---|----|-------|---|-------|------|---------|
| 到達 目標 | 平面上のベクトル、及び空間のベクトルの考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書：数研出版「数学C」 副教材：数研出版「4STEP 数学C」「チャート式基礎からの数学C」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 数学C 第2章 空間のベクトル | | | 平面上のベクトルの定義を理解し、ベクトルに関する基本的な性質・用語・記号に習熟する。また、ベクトルの加法・減法及び実数倍についての図形的意味を理解し、ベクトルの演算ができるようにする。 次に、ベクトルを座標平面と関連させ、ベクトルの成分の定義を理解する。さらに、ベクトルの内積の定義や基本的な性質を理解し、内積の計算ができるようにする。 位置ベクトルの定義を理解し、平面上の点を位置ベクトルで表すことができるようにする。また、平面上の直線や円のベクトル方程式を使えるようにする。さらに、それらを応用して、いろいろな平面図形の性質を調べることができるようにする。 空間内の直線や平面の位置関係を理解する。また、座標空間の定義を理解し、空間内の点を座標で表せるようにする。 さらに、空間内においても平面の場合と同じようにベクトルを考えることができることを知り、空間ベクトルの演算や成分・内積の定義を理解する。また、空間内の点を位置ベクトルで表し、空間内の図形に関するいろいろな問題を考察することができるようにする。 | | | |
| 学習 上の | 授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確 | | | | | | |

| | |
|---------|---|
| 留意 点 | 認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。 問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。 |
|---------|---|

科目の年間授業計画 (シラバス)

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 II | 単位数 | 3 単 位 | 履修学年 | 5 年 理 系 |
|------------|---|----|--------|---|-------|------|---------|
| 到達目標 | 図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基本的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書：数研出版「数学Ⅱ」 副教材：数研出版「数学Ⅲ」 「4STEP 数学Ⅱ」「チャート式基礎からの数学Ⅱ」 「4STEP 数学Ⅲ」「チャート式基礎からの数学Ⅲ」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 | | | <p>2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線との距離を求めたりできるようにする。</p> <p>円の方程式について学び、円と円、円と直線との位置関係を調べることができるようにする。また、円の接線の方程式を求めることができるようにする。</p> <p>与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等式で表された領域を図示できるようにする。</p> <p>弧度法の考え方を理解し、角の大きさを弧度法で表現できるようにする。また、三角関数の周期性について学び、簡単な三角関数のグラフがかけられるようにする。さらに、三角関数の相互関係の公式を理解し、グラフや公式を利用して三角方程式や三角不等式が解けるようにする。</p> <p>三角関数の加法定理を理解し、それを応用して、倍角、半角、積と和の変換公式、合成の式</p> | | | |

| | | |
|---------|---|---|
| | <p>数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第1節 指数関数</p> <p>第2節 対数関数</p> | <p>を使えるようにする。</p> <p>指数の拡張と指数法則について理解し、計算ができるようにする。また、指数関数の特徴と性質について理解し、そのグラフがかけられるようにする。</p> <p>対数の意味と性質について理解し、計算ができるようにする。また、対数関数の特徴と性質について理解し、そのグラフがかけられるようにする。</p> |
| 2 | <p>数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法</p> <p>第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分法</p> <p>関数についての発展的内容 (極限・微分法・積分法)</p> | <p>平均変化率や微分係数の意味を図形的意味も含めて理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を求めることができるようにする。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフがかけられるようにする。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について調べることができるようにする。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を学び、整関数の不定積分を求めることができるようにする。また、定積分の定義を理解し、その計算ができるようにする。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積を求める方法を学び、面積を計算できるようにする。</p> <p>これまでに学んだ関数に加えて、分数関数や無理関数及びそれらの合成関数について、その特徴を理解し、微分法や極限の考え方を利用して、関数の増減や極値を調べ、グラフがかけられるようにする。また、定積分を利用して、面積の計算ができるようにする。</p> |
| 学習上の留意点 | <p>授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。</p> <p>問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p> | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 Ⅲ | 単位数 | 2 単 位 | 履修学年 | 5 年 理 系 |
|-----------------------------|--|----|-------|--|-------|------|---------|
| 到達 目標 | 関数、極限、微分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書：数研出版「数学Ⅲ」 副教材：数研出版「4STEP 数学Ⅲ」「チャート式基礎からの数学Ⅲ」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 2 | 数学Ⅲ 第1章 関数 数学Ⅲ 第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 | | | 分数関数と無理関数のグラフをかいたり、グラフを利用して分数不等式や無理不等式が解けるようにする。 数列の極限、無限等比級数や一般の無限級数の収束・発散について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 これまでに学んだ関数に加えて分数関数と無理関数を扱い、関数概念の理解を一層深め、いろいろな関数について、その関数値の極限を求める。 | | | |
| 3 | 数学Ⅲ 第3章 微分法 関数についての発展的内容 （複素数平面・式と曲線） | | | 数学Ⅱで学んだことを更に発展させ、和・差・積・商および合成関数の微分法を扱い、初等関数の導関数について理解する。 複素数平面上での複素数の演算の意味を理解する。放物線、楕円、双曲線などの曲線の方程式を導き、それぞれの曲線の基本的な性質について理解する。 | | | |
| 学習 上 の 留 意 点 | 授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。 問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。 | | | | | | |

科目の年間授業計画 (シラバス)

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 B | 単位数 | 1 単 位 | 履修学年 | 5 年 理 系 |
|---------------------------------|--|----|-------|--|-------|------|---------|
| 到達 目標 | 数列について理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書：数研出版「数学B」 副教材：数研出版「4STEP 数学B」「チャート式基礎からの数学B」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 数学B 第1章 数列 第1節 数列とその和 | | | 数列の概念や数列に関する用語の意味を理解する。また、等差数列や等比数列の定義を理解し、その一般項や和を求めることができるようにする。 次に、 Σ 記号の意味を理解し、いろいろな数列の和を Σ を使って表し、求めることができるようにする。さらに、階差数列の定義を理解し、階差数列の一般項を利用して、いろいろな数列の一般項を求めることができるようにする。 | | | |
| 2 | 第2節 数学的帰納法 | | | 数列の帰納的な定義及び漸化式の意味について理解する。また、漸化式で定められた数列の一般項を求めることができるようにする。さらに、数学的帰納法の考え方を利用して、自然数に関するいろいろな命題を証明することができるようにする。 | | | |
| 学 習 上 の 留 意 点 | 授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。 問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 数 学 | 科目 | 数 学 C | 単位数 | 1 単 位 | 履修学年 | 5 年 理 系 |
|----------------------------|---|----|-------|--|-------|------|---------|
| 到達 目標 | 平面上のベクトル、空間のベクトル、及び複素数平面の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。 | | | | | | |
| | 【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書：数研出版「数学C」 副教材：数研出版「4STEP数学C」「チャート式基礎からの数学C」 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 2 | 数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 数学C 第2章 空間のベクトル | | | <p>平面上のベクトルの定義を理解し、ベクトルに関する基本的な性質・用語・記号に習熟する。また、ベクトルの加法・減法及び実数倍についての図形的意味を理解し、ベクトルの演算ができるようにする。</p> <p>次に、ベクトルを座標平面と関連させ、ベクトルの成分の定義を理解する。さらに、ベクトルの内積の定義や基本的な性質を理解し、内積の計算ができるようにする。</p> <p>位置ベクトルの定義を理解し、平面上の点を位置ベクトルで表すことができるようにする。また、平面上の直線や円のベクトル方程式を用いるようにする。さらに、それらを応用して、いろいろな平面図形の性質を調べることができるようにする。</p> <p>空間内の直線や平面の位置関係を理解する。また、座標空間の定義を理解し、空間内の点を座標で表せるようにする。</p> <p>さらに、空間内においても平面の場合と同じようにベクトルを考えることができることを知り、空間ベクトルの演算や成分・内積の定義を理解する。また、空間内の点を位置ベクトルで表し、空間内の図形に関するいろいろな問題を考察することができるようにする。</p> | | | |

| | | |
|---------|---|--|
| 3 | 数学Ⅲ 第3章 複素数平面 | 複素数平面上での複素数の演算の図形的な意味を理解し、平面図形への応用などの事象の考察に活用できるようにする。 |
| 学習上の留意点 | <p>授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。</p> <p>問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p> | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 理 科 | 科目 | 化学基礎 | 単位数 | 1 | 履修学年 | 5年文系 |
|----------------------------|--|----|--------------------------|-----|---|------|------|
| 到達 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 ・共通テストにも対応できる思考力を養う。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | <p>【知識・技能】</p> <p>身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> | | | | | | |
| | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> | | | | | | |
| | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p> | | | | | | |
| 使用 教材 | <p>教科書：数研出版「化学基礎」</p> <p>副教材：スクエア最新図説化学，2022新編アクセス化学基礎，問題集（4月に選定）</p> | | | | | | |
| 1 | <p><演習></p> <p>第1編 物質の構成と化学結合</p> <p>第1章 物質の構成</p> <p>第2章 物質の構成粒子</p> <p>第3章 粒子の結合</p> <p>第2編 物質の変化</p> <p>第1章 物質量と化学反応式</p> | | <p>演習問題に取り組み，理解を深める。</p> | | | | |
| 2 | <p><演習></p> <p>第2編 物質の変化</p> <p>第2章 酸と塩基の反応</p> | | <p>演習問題に取り組み，理解を深める。</p> | | | | |
| 3 | <p><演習></p> <p>第2編 物質の変化</p> <p>第3章 酸化還元反応</p> | | <p>演習問題に取り組み，理解を深める。</p> | | | | |
| 学習 上の 留意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し，積極的な学習態度で臨むこと。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにするとともに，応用力を身につけること。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 理 科 | 科目 | 生物基礎 | 単位数 | 1 単位 | 履修学年 | 5 年文系 |
|------------|--|----|------|--|------|------|-------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 生物や生物現象にかかわる基礎的な内容、身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら理解し、基礎的な素養を身に付ける。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書：生物基礎（数研出版） 副教材：スクエア最新図説生物 neo（第一学習社） 問題集：リードα生物基礎（数研出版） | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第1編 生物と遺伝子 | | | <ul style="list-style-type: none"> 生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。 細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。 呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。酵素によって生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。 DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。 | | | |
| | 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA | | | | | | |
| 2 | 第2章 遺伝子とそのはたらき 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現 第2編 ヒトの体内環境の維持 | | | <ul style="list-style-type: none"> DNAが、半保存的に複製されることを理解する。 タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していること、自律神経系と内分泌系による情報伝達が、からだの状態を調節していることを理解する。 ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることを理解する。 | | | |
| | 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき | | | | | | |
| 3 | 第3編 生物の多様性と生態系 | | | <ul style="list-style-type: none"> 植生の成りたちや相観について、植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。 | | | |
| | 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全 | | | | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 学習内容が定着しているか確認し、応用力を身につけること。 授業が週1回なので、日頃から記憶の定着を心がけること。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 理 科 | 科目 | 化 学 | 単位数 | 4 | 履修学年 | 5 年理系 | | | | |
|----------------------------|---|----|-----------------|-----|--|------|-------------------|--|--|--|--|
| 到達 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | | | | | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | <p>【知識・技能】</p> <p>自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> | | | | | | | | | | |
| | <p>【思考・判断・表現】</p> <p>習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> | | | | | | | | | | |
| | <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p> | | | | | | | | | | |
| 使用 教材 | <p>教科書：数研出版「化学」</p> <p>副教材：スクエア最新図説化学，セミナー化学基礎＋化学</p> | | | | | | | | | | |
| 1 | 第1編 物質の状態 | | 第2章 物質の状態変化 | | 第3章 気体 | | 第4章 溶液 | | | | |
| | 第2編 物質の変化 | | 第1章 化学反応とエネルギー | | <ul style="list-style-type: none"> ・状態変化に伴うエネルギーの出入りや気液平衡と蒸気圧について理解する。 ・気体の体積と圧力，温度との関係をボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を中心にして理解する。 ・溶解度について理解する。また，蒸気圧降下，沸点上昇，凝固点降下，浸透圧，コロイド溶液について理解する。 ・化学反応における熱及び光の発生や吸収は，反応の前後における化学エネルギーの差から生じることを理解し，エンタルピー変化として記述することを理解する。また，反応エンタルピーの定義と種類，ヘスの法則を用いて反応エンタルピーを求める方法を理解する。 | | | | | | |
| 2 | 第2編 物質の変化 | | 第3章 化学反応の速さとしくみ | | 第4章 化学平衡 | | 第3編 無機物質 | | | | |
| | | | 第1章 非金属元素 | | 第2章 金属元素（Ⅰ）－典型元素－ | | 第3章 金属元素（Ⅱ）－遷移元素－ | | | | |
| 3 | 第3編 有機化合物 | | 第1章 有機化合物の分類と分析 | | 第2章 脂肪族炭化水素 | | 第3章 アルコールと関連化合物 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類について理解する。また，分析方法について理解する。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を，構造と関連付けて理解する。 ・酸素を含む有機化合物であるアルコールやエーテル，アルデヒド，ケトン，カルボン酸，油脂などについて，構造や性質を学ぶ。また，官能基により性質が変わることに注目し，これらの化合物相互の関係や反応を，構造と関連付けて理解する。 | | | | | | | | | | |
| 学習 上の 留意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら，自然に関心をもち，科学的に探究しようとする態度を養う。 ・中間・定期考査などは，学習内容に合わせて問題を出題する。 ・学習のねらいを実現するため，発展的内容を取り入れる。 ・必要に応じてプリントを用い，演習を行う。 | | | | | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 理 科 | 科目 | 物 理 | 単位数 | 4 単位 | 履修学年 | 5 年理系 |
|-----------|--|----|-----|--|------|------|-------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎の学習に加えて、力学、熱力学、波動、電磁気学について、基本法則を系統的に学ぶ。 ・目的意識をもって観察・実験・考察などを行い、物理量の測定と表し方、分析の手法を学び、事物・事象を物理学の視点で考える能力を育み、日常生活を豊かにすることを考える。 | | | | | | |
| 評価観点・評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などの理解や、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する知識や技能を観点とし、定期考査の得点・課題・レポート等を基準として評価する。 ・思考・判断・表現 知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力や、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているかを観点とし、定期考査の得点、レポート、課題等を基準として評価する。 ・主体的に学習に取り組む態度 知識・技能・思考・判断・表現などを身に付ける過程で、見通しを持った振り返りなど、自ら学習を調整し、粘り強く学習に取り組んでいるかを観点とし、レポート、課題、振り返り評価等を基準として評価する。 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書：数研出版 物理 副教材：駿台文庫 理系標準問題集 物理 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 平面運動の速度・加速度、落体の運動 第2章 剛体 剛体にはたらく力のつりあい 剛体にはたらく力の合力と重心 第3章 運動量の保存 運動量と力積、運動量保存則、反発係数 第4章 円運動と万有引力 等速円運動、慣性力、単振動、万有引力 | | | 質点の運動について、運動方程式を通して理解を深める。等加速度運動について平面上の運動を扱う。ベクトルや成分を用いて、運動方程式を立てることを学ぶ。運動方程式の変形から得られる同等の法則として、運動量と力積の関係を学ぶ。衝突の前後で運動量が保存すること、運動エネルギーの変化から反発係数を扱う。剛体の運動について、剛体のつり合いを記述するため、力のモーメントを導入する。色々な運動の例として円運動、単振動、万有引力（法則）による運動を扱う。観測者の視点と慣性力を学ぶ。 | | | |
| 2 | 第2編 熱と気体 気体の法則、気体分子の運動、 気体の状態方程式 第3編 波 第1章 波の伝わり方 波と媒質の運動、正弦波、波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 音の伝わり方、音のドップラー効果 第3章 光 光の性質、レンズと鏡、光の干渉と回折 | | | 気体の状態が温度、圧力、体積という状態で決まることから、気体の状態変化について学ぶ。熱とは何か。熱の正体が気体分子の熱運動であることを理解し、気体の圧力を力学的に求める。内部エネルギーを定義し、仕事と熱の違いと、熱エネルギーまで含めたエネルギー保存則である熱力学第1法則を理解する。定積、定圧、等温、断熱の4つの状態変化について学び、熱機関と効率を理解する。 波動現象について、波の式を用いて、正弦波の表し方と反射波や定在波を理解する。2次元の波について反射、屈折、回折、干渉を扱う。音波のドップラー効果を理解する。レンズの公式、球面鏡を扱う。ヤングの実験、薄膜などによる光の干渉について理解する。 | | | |
| 3 | 第4編 電気と磁気 第1章 電場 静電気、電場、電位、物質と電場、 コンデンサー | | | 静電気と電気量、電場の概念を理解する。電場についての基本法則としてクーロンの法則とガウスの法則を扱う。電場と電位について、一様な電場と点電荷が作る電場と電位をそれぞれ学ぶ。電場、電位の重ね合わせを扱う。一様な電場の例としてコンデンサーの基本的な性質について、誘電体、静電エネルギー、コンデンサーの接続について学ぶ。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を通して、日常生活における現象に関心を持ち、科学的な視点をもって考える態度を身につけてください。 ・教科書の内容の完璧な理解を目指し、授業前後に、しっかり読んでください。 ・学習の定着をはかるために、問題演習を自主的に行ってください。その際、計算用紙をたっぷり使って自分の手で図を描いたり、何度も計算したりしてください。問題集、小テスト、定期試験や模擬試験は繰り返して復習することが大切です。別解を考えるとより理解が深まります。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 理 科 | 科目 | 生物 | 単位数 | 4 単位 | 履修学年 | 5 年（理系） |
|------------|--|----|----|---|------|------|---------|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | <p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> | | | | | | |
| | <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> | | | | | | |
| | <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | <p>教科書：生物（数研出版） 副教材：スクエア最新図説生物（第一学習社） 問題集：リードα生物（数研出版）</p> | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | <p>第1章 生物の進化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変化 4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化 <p>第2章 細胞と分子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・生命の起源として、「細胞」が生じたことを理解する。 ・生物が地球環境の影響を受けて進化したこと、突然変異によって遺伝的な多様性が生じることを理解する。 ・減数分裂で、遺伝子の組換えが起こることを理解する。 ・遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度に変化する。 ・DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。 ・人類が霊長類の類人猿から進化したことを理解する。 ・生物の基本単位である細胞の構造と機能を理解する。 ・細胞の生命活動を担うタンパク質の構造を理解する。 ・酵素の基本的な性質と働く反応条件について理解する。 ・生体膜を介した物質輸送、情報伝達、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。 | | | |
| 2 | <p>第3章 代謝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 <p>第4章 遺伝情報の発現と発生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DNA の構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸は有機物の酸化で、発酵は酸素を用いない有機物の分解でATPを合成することを理解する。 ・光合成では、光エネルギーを用いてATPと電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。 ・DNA の遺伝情報を写し取ってRNA が合成され転写されたRNA からタンパク質が合成されることを理解する。 ・遺伝子の発現が、環境などで変化することを理解する。 ・発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 ・ゲノム編集などの技術について、その原理を理解する。 | | | |
| 3 | <p>第5章 動物の反応と行動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚は、目の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられることを理解する。 ・ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であることを理解する。 ・動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・新聞・ニュース等で報道される生物現象に関する記事は必ず読むこと。 ・自然に関心をもち、科学的に探求しようとする事。 ・学習の定着をはかるために、問題集は必ず解くこと。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育(男女) | 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 5年 |
|------------|--|-----------|---|-----|-----|------|----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じて集団の中での個人の役割、協調性を考えることができる。 ・運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。 ・それぞれの能力に応じた課題を持ち、目標を持って運動に取り組むことができる。 ・各種のゲームを通じて、ルールや安全に留意し、協力してゲームを進めることができる。 ・豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | | | |
| 使用教材 | 「ステップアップ高校スポーツ2023」 | | | | | | |
| | 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」(大修館) | | | | | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動(集団行動等) ①ソフトボール ②ダンス ・体育理論(1・2) | } から1種目選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた、健康増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てることができるようにする。 ・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする。 ・自主的に取り組みせ、それぞれ技術や体力の高め方などを学ぶ。また、動きなどの自己や仲間の課題を発見し合理的な解決に向けて工夫して取り組みせるとともに自分の考えを他者へ伝えさせる。 ・スポーツにおける技能と体力、スポーツにおける技術と戦術について理解させる。 | | | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ①バドミントン ②ソフトテニス ・体育理論(3・4) | | <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに技術や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する。 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする。 ・効果的な動きのメカニズム、技能の上達過程と練習について理解させる。 | | | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ①サッカー ②バスケットボール ・体育理論(5・6) | | <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わうとともに技術や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解する ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができるようにする。 ・フェアなプレイを大切にしようすることを理解させる。 ・体カトレーニング、運動やスポーツでの安全確保について理解させる。 | | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体性を重視する。 ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 ・話し合いに貢献する。 ・健康・安全を確保する。 ・体育理論を適時実施する。(6時間) | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 保健体育 | 科目 | 保健 | 単位数 | 1 単位 | 履修学年 | 5 年 |
|-----------|--|----|----|-----|--|------|-----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康課題について理解を深め、課題に応じた健康管理及び環境づくりを行える資質を身につける。 ・労働災害は作業形態や作業環境の変化にともなって変化してきたことを理解し、働く人の健康の保持増進に必要な健康管理・安全管理を理解することができる。 ・環境・食品と健康との関わりについて理解を深めることができる。 ・我が国の保健・医療制度について理解し、適切に活用することができる。 ・健康を支える様々な環境作りに関する情報から課題を発見し、解決方法を思考し判断すると共に表現することができる。 | | | | | | |
| 評価の観点評価基準 | 【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスク軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。 | | | | | | |
| 使用教材 | 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館） | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | | 学習のねらい | | |
| 1 | 3 単元 生涯を通じる健康 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 | | | | 3 単元 ・性的成熟に伴う心理面・行動面の変化や、健康な結婚生活、加齢に伴う心身の変化について理解させるとともに、生涯の各段階の健康課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。 | | |
| | 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活 4 単元 健康を支える環境づくり 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁・土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 | | | | ・働く人の健康の保持増進・労働災害の防止には、適切な健康管理及び安全管理をすることを理解させるとともに、様々な情報から課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。 4 単元 ・健康の実現のための環境づくりに関する取り組みについて理解させるとともに、課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。 | | |
| | 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動 7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加 | | | | ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であることを理解させる。 ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度を適切に活用することが必要であることを理解させる。 ・様々な健康を支える環境作りの情報から課題を発見し、解決方法を思考・判断・表現させる。 | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健ノートやプリントを活用し、生涯の各段階の健康について考える。 ・映像教材やパワーポイント、ICT機器等を活用し、理解を深める。 ・他者の意見や感想を聴きながら、自分の意見も発表し、考えを深める。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 芸術 | 科目 | 音楽Ⅰ | 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 5年 |
|------------|--|----|-----|---|-----|------|----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の様々な音楽にふれ、表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・日本及び世界の音楽に親しみ、そのルーツを探り、地域や時代の異なった音楽どうしのかかわりに関心を持つ。 ・日本の伝統的な音楽にふれる。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | <p>【知識・技能】・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、表現しているか。 ・多様な音楽や音楽文化に対して理解を深めているか。</p> <p>【思考・判断・表現】・音楽の要素等を知覚し、それらの働きを感受し、その関わりを考え、どのように表現するかを思考し、その音楽のよさや美しさを味わいながら、鑑賞・表現しているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・様々な音楽に興味・関心を持ち、意欲的・主体的に音楽活動を行っているか</p> | | | | | | |
| 使用教材 | 教育芸術社「MOUSA1」 カワイ出版「高校生のための音楽ノート」、自作プリント | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・Caro mio ben ・'O sole mio ・夏の思い出 ・翼をください ・Lemon ・花 <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱テスト | | | イタリア歌曲の発声方法を基本的な発声法として学び、イタリア音楽について理解を深める。また、曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌う。 日本歌曲に親しむ。表現・歌唱法について学習・研究し、理解を深める。 学習内容の確認を行う。 | | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・野ばら ・見上げてごらん夜の星を <ul style="list-style-type: none"> ・トッカータとフーガ 二短調 Bwv 5 6 5 ・ピアノソナタ第2 3 番へ短調 o p. 5 7 ・交響曲第2 5 番ト短調K. 1 8 3 <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱テスト | | | ドイツリートが発声方法と発声法について学び、また、鑑賞することによってドイツ音楽について理解を深める。 学習内容の確認を行う。 | | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・サザエさん <ul style="list-style-type: none"> ・組曲《動物の謝肉祭》 ・バレエ音楽《ボレロ》 <ul style="list-style-type: none"> ・楽典 ・筆記テスト | | | アカペラの重唱を通じて、アンサンブルについて学習し、理解する。 フランス音楽を鑑賞し、フランス音楽について理解を深める。 基本的理論について学習し、理解を深める。 学習内容の確認を行う | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を「自ら学ぶ」態度と方法を身に付けるため、積極的に取り組む。 ・自分の知っている曲や興味のあるジャンルを元に、その他の曲とのかかわりを見つける。 ・音楽と文化歴史は密接に関わっているので、総合的な知識と技能を身につける。 | | | | | | |

科目の年間授業計画(シラバス)

| | | | | | | | |
|------------|---|----|------|---|------|------|-----|
| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術 I | 単位数 | 1 単位 | 履修学年 | 5 年 |
| 到達目標 | 美術の創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 対象や事象を捉える造形的な視点の知識について理解を深めているか。 * 制作活動において必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表しているか <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自ら主題を生成し、表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っているか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組めたか。 * 準備から片付けまで主体的に取り組むことができたか。 | | | | | | |
| 使用教材 | <ul style="list-style-type: none"> * 教科書 * スケッチブック、絵の具などは中学と同様各自準備し一括購入はしないが、購買で購入可。(詳しくは最初の美術の授業時に説明する。) | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 | ○絵画 素描、人物画、静物画、構想画、風景画、抽象画等の中からいずれかの課題を指定する。 | | | <ul style="list-style-type: none"> * 対象の良さや美しさを感じるとともに、それらを表現するための技能を高める。 * 自ら意図したものを効果的に表現するための構成能力を高める。 * 色や形それ自体のおもしろさや美しさに気付き、それらを制作に生かそうとする態度を養う。 | | | |
| 2 | ○デザイン レタリングやイラスト等を含めたデザイン、平面又は立体の構成デザイン等の中から制作課題を指定する。 ○鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用 | | | <ul style="list-style-type: none"> * 主題や自分の意図を的確に伝えるために創意工夫する態度を養う。 * 視覚的な伝達効果を考えた表現の能力を高める。 * 作者の心情や意図を自分なりに推し量り、表現の多様性や作品の良さに気付き、それらを味わう心を養う。 | | | |
| 3 | ○課題選択作品 平面又は立体 (指定したテーマについて、計画的に制作) | | | <ul style="list-style-type: none"> * 興味、関心、意欲、能力に応じて自らの課題を見つけ、制作に臨む態度を養う。 * 材料や用具の特性を理解し、多様な技法を身につける。 * 材料を生かし、独創的な表現をしようとする態度を養う。 | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> * 制作は授業時間内に終わることを原則とするが、希望者には放課後美術室での制作を許可する事もある。 * 準備、制作、片づけともに主体的に取り組むよう指導する。 * 興味、関心、意欲、能力には個人差があるので、各講座の様子によって課題を多少変更することがある。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 芸術 | 科目 | 書道Ⅰ | 単位数 | 1単位 | 履修学年 | 5年 |
|------------|---|----|-----|-----|--|------|----|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での書写を基本に、古典に基づく表現力・鑑賞力を身につける。 ・書道の活動（漢字の書）を通し表現力を身につけ、書の美しさを感じとる鑑賞力を育てる。 ・また、活動を通し、書を愛好する心情を育てる。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 書の表現や、基礎的な古典を理解し、効果的な技法を身につけ、臨書することができたか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 学習した古典の特徴を汲み取り、意図に応じて表現を工夫できたか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 書の表現や鑑賞など、幅広い活動に取り組むことができたか。 | | | | | | |
| 使用教材 | 書道Ⅰ（書Ⅰ701）教育出版・自作プリント | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | | 学習のねらい | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○書の芸術性 ○書体の変遷 ○楷書の学習 | | | | 必要な用具・用材について、理解し、丁寧に扱う態度を養う。 腕の構え方、筆の持ち方、書く姿勢について理解する。 基本的な筆使いを確認する。 様々な用筆・運筆による表現を工夫する。 漢字の書体を学習する。 楷書にも様々な書風があることを理解し、鑑賞し、臨書する。 | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○楷書の学習 ○行書の学習 | | | | 行書の特徴を理解し、基本用筆の書き方を練習し、鑑賞し、臨書する。 学習した古典を題材として習得した技法を生かして創作する。 | | |
| 3 | ○行書の学習 | | | | 発展的な行書作品を通して、技法を習得し、鑑賞を行う。 | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・色々な作品にふれて、書のすばらしさを感じる。 ・ノート作成、ポートフォリオによって、作品を鑑賞する力をつけると共に自己を評価し、表現力を身につける。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語コミュニケーションⅡ | 単位数 | 4単位 | 履修学年 | 5年 |
|------------|---|----|--------------|--|-----|------|----|
| 到達目標 | 英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を意識して、ある程度の長さの英文を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | <p>【知識・技能】</p> <p>(1) 必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。（聞くこと）</p> <p>(2) 語彙・文法・語法を身につけ、英文の読解が正しくできる。（読むこと）</p> <p>(3) 基本的な語句や文を用いて、考えや気持ちなどを話して伝えることができる。（話すこと・やり取り）</p> <p>(4) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。（話すこと・発表）</p> <p>(5) 語彙・文法・語法を身につけ、正しい英文を書くことができる。（書くこと）</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>(1) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりできる。（聞くこと・読むこと）</p> <p>(2) 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話し合ったりすることができる（話すこと・やり取りと発表）</p> <p>(3) 目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、論理的に書くことができる。（書くこと）</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(1) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を聞こうとしている。（聞くこと）</p> <p>(2) 授業や家庭学習において、自律的に英語で書かれたものを読もうとしている。（読むこと）</p> <p>(3) 授業中において、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。（話すこと・やり取り）</p> <p>(4) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。（話すこと・発表）</p> <p>(5) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。（書くこと）</p> | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書： CROWN English Communication Ⅱ（15三省堂CⅡ707） 準教科書等： 文法問題集 その他プリント等 | | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1学期 | Lesson1: Lost in Translation 不定詞の意味上の主語/受け身 Lesson2: One Book Can Empower a Child 動名詞の意味上の主語/不定詞の完了形 Lesson3: Accessible Japan さまざまな分詞構文/強調構文 | | | ・筆者の意向、考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようにする。また、本文の内容について、自分の考えや意見を書いたり、相手に伝えたりすることができるようにする。 ・高校英語の学習に必要な基礎知識を身につけ、活用 | | | |

| | | |
|---------------------|---|--|
| 2 学 期 | <p>Lesson4: Crossing the Border -Médecins Sans Frontières- 関係副詞の非制限用法/不定詞+前置詞</p> <p>Lesson5: Mental Toughness 前置詞+関係代名詞/無生物主語の他動詞構文</p> <p>Lesson6: Walking in Gaudi' s Footsteps 助動詞+have+過去分詞/S is C=whether節</p> <p>Lesson7: Why Biomimicry? if 節のない仮定法/未来に関する仮定法</p> | <p>できるようにする。 (句読法、フレーズリーディング、ディスコースマー カー、パラグラフの構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語彙力の習得に努め、英文読解力を養う。 ・各単元で学習する英文法の基本をおさえ、問題演習を通じてその理解を深める。 ・音読の重要性を学び、英文を正しく音読できる力を身につける。 <p>(音の連結/脱落/同化、文の区切り、強勢とリズム、イントネーション)</p> |
| 3 学 期 | <p>Lesson8: Invisible No Longer be to 不定詞/結果を表す不定詞</p> <p>Lesson9: Nudges 未来進行形/未来完了形/受け身の進行形</p> <p>Lesson10: Are We Alone? 独立分詞構文/倒置</p> | |
| 学習 上の 留意 点 | <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、準教科書やプリント等を使用し、発展的内容に取り組む。 ・予習、復習という家庭での学習を徹底する。 ・4年生で学習した文法事項、基本単語や表現を土台とし、発展的な内容への理解を深める。 ・ただ英文の内容を読み、概要や要点を理解するのではなく、何のために読むか、というような目的を持って活動に取り組むことができるようにする。 ・各単元で学習する文法事項、基本単語や表現を、知識を蓄えることだけを目的として学習するのではなく、様々な言語活動で活用できるようにする。 | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 外国語 | 科目 | 論理・表現Ⅱ | 単位数 | 3単位 | 履修学年 | 5年 文系 |
|---|---|----|--------|---|-----|------|-------|
| 到達 目標 | 英語学習の特質を踏まえ、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの三つの領域を意識して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活においても活用できるようにする。また、大学入試の読解問題にも対応する実力を養成する。 | | | | | | |
| 評価 の 観点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 | | | | | | |
| | (1) 基本的な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 (話すこと・やり取り) | | | | | | |
| | (2) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (話すこと・発表) | | | | | | |
| | (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 (書くこと) | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | |
| (1) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。 (話すこと・やり取り) | | | | | | | |
| (2) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようになるようにする。 (話すこと・発表) | | | | | | | |
| (3) 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようになるようにする。 (書くこと) | | | | | | | |
| 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | | | | |
| (1) 授業中において、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。 (話すこと・やり取り) | | | | | | | |
| (2) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。 (話すこと・発表) | | | | | | | |
| (3) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。 (書くこと) | | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書： CROWN English Logic and ExpressionⅡ (15 三省堂 論Ⅱ 704) 準教科書等： 基礎からの新新総合英語 Grand View English Grammar in 48 Stages Grand View English Grammar in 48 Stages Workbook その他プリント等 | | | | | | |
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson1 Dear Mayor, 希望・願望／依頼・要請／許可 ・ Lesson2 Manga Find Ever-increasing Global Fans 感情を表す表現 ・ Lesson3 Japanese Baths 忠告・義務／必要／提案・勧誘 | | | <p>W: 適切な時制を選択する</p> <p>S: スピーチ (発表の開始や終了に関する表現)</p> <p>W: 心の様子を助動詞で表現する</p> <p>S: プレゼンテーション (説明と内容の列挙に関する表現)</p> <p>W: 視点によって能動態と受動態を使い分ける</p> <p>W: ライティング (紹介文の構成)</p> | | | |

| | | |
|-------------------------------|---|---|
| <p>2 学 期</p> | <ul style="list-style-type: none"> Lesson4 Innovators of the World 時間的順序 Lesson5 Don't Throw Us Away! 例証／分類・列挙 Lesson6 Urban Development 空間配列・方向 Lesson7 Food and Culture in the World 方法・様態／数量表現 | <p>W: 役割によって動詞の形を変える (名詞、形容詞、副詞)</p> <p>S: ディスカッション (考えや感想を求めたり、意見を述べたりする表現)</p> <p>W: 不定詞と動名詞の意味的な違いを理解する</p> <p>S: ディベート (自分の主張と理由を明確に伝える表現)</p> <p>W: 役割によって動詞の形を変える (形容詞)</p> <p>S: スピーチ (聞き手へ問いかけたり、自分の主張を裏付けたりする表現)</p> <p>W: 物事を比較して表現する</p> <p>S: プレゼンテーション (意見や理由を述べる表現)</p> |
| <p>3 学 期</p> | <ul style="list-style-type: none"> Lesson8 The Potential for E-Sports 賛成・反対 Lesson9 All Gone? 原因・理由／目的／結果 Lesson10 The "New Normal" at School 比較・対照／譲歩 | <p>W: 関係詞を用いて、より詳しい説明を加える</p> <p>W: ライティング (情報を追加したり、結果を示したりする表現)</p> <p>W: 事実と反する内容を表現する</p> <p>S: ディスカッション (異なる意見を受け入れた上で、自分の考えを述べる表現)</p> <p>W: 接続詞の種類と働きを理解する</p> <p>S: ディベート (立論、反論、ディベートの進行に必要な表現)</p> |
| <p>学習 上の 留意 点</p> | <ul style="list-style-type: none"> 予習、復習、発表の準備といった、家庭での学習を徹底する。 各単元で実施する言語活動において有用な表現を習得し、活用できるようにする。 4年生で学習した文法事項、基本単語や表現を定着させ、英語の基本ルールに従って正しい英文を作れるようにする。 論理の構成や展開を工夫しながら英語を話したり書いたりできるよう、提示されている模範的な英文の構造や使用場面をよく理解し、活用できるようにする。 | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 外国語 | 科目 | 論理・表現Ⅱ | 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 5年 理系 |
|--|---|----|--------|--|-----|------|-------|
| 到達 目標 | 英語学習の特質を踏まえ、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの三つの領域を意識して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活においても活用できるようにする。また、大学入試の読解問題にも対応する実力を養成する。 | | | | | | |
| 評価 の 観点・ 評価 基準 | 【知識・技能】 | | | | | | |
| | (1) 基本的な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 (話すこと・やり取り) | | | | | | |
| | (2) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (話すこと・発表) | | | | | | |
| | (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 (書くこと) | | | | | | |
| 【思考・判断・表現】 | | | | | | | |
| (1) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。 (話すこと・やり取り) | | | | | | | |
| (2) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (話すこと・発表) | | | | | | | |
| (3) 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 (書くこと) | | | | | | | |
| 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | | | | |
| (1) 授業中において、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。 (話すこと・やり取り) | | | | | | | |
| (2) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。 (話すこと・発表) | | | | | | | |
| (3) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。 (書くこと) | | | | | | | |
| 使用 教材 | 教科書： CROWN English Logic and Expression II (15 三省堂 論Ⅱ 704) 準教科書等： 基礎からの新新総合英語 Grand View English Grammar in 48 Stages Grand View English Grammar in 48 Stages Workbook その他プリント等 | | | | | | |
| 1 学 期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson1 Dear Mayor, 希望・願望／依頼・要請／許可 ・ Lesson2 Manga Find Ever-increasing Global Fans 感情を表す表現 ・ Lesson3 Japanese Baths 忠告・義務／必要／提案・勧誘 | | | <ul style="list-style-type: none"> W: 適切な時制を選択する S: スピーチ (発表の開始や終了に関する表現) W: 心の様子を助動詞で表現する S: プレゼンテーション (説明と内容の列挙に関する表現) W: 視点によって能動態と受動態を使い分ける W: ライティング (紹介文の構成) | | | |

| | | |
|-------------------------------|---|---|
| <p>2 学 期</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson4 Innovators of the World 時間的順序 ・ Lesson5 Don't Throw Us Away! 例証／分類・列挙 ・ Lesson6 Urban Development 空間配列・方向 ・ Lesson7 Food and Culture in the World 方法・様態／数量表現 | <p>W: 役割によって動詞の形を変える (名詞、形容詞、副詞)</p> <p>S: ディスカッション (考えや感想を求めたり、意見を述べたりする表現)</p> <p>W: 不定詞と動名詞の意味的な違いを理解する</p> <p>S: ディベート (自分の主張と理由を明確に伝える表現)</p> <p>W: 役割によって動詞の形を変える (形容詞)</p> <p>S: スピーチ (聞き手へ問いかけたり、自分の主張を裏付けたりする表現)</p> <p>W: 物事を比較して表現する</p> <p>S: プレゼンテーション (意見や理由を述べる表現)</p> |
| <p>3 学 期</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson8 The Potential for E-Sports 賛成・反対 ・ Lesson9 All Gone? 原因・理由／目的／結果 ・ Lesson10 The "New Normal" at School 比較・対照／譲歩 | <p>W: 関係詞を用いて、より詳しい説明を加える</p> <p>W: ライティング (情報を追加したり、結果を示したりする表現)</p> <p>W: 事実と反する内容を表現する</p> <p>S: ディスカッション (異なる意見を受け入れた上で、自分の考えを述べる表現)</p> <p>W: 接続詞の種類と働きを理解する</p> <p>S: ディベート (立論、反論、ディベートの進行に必要な表現)</p> |
| <p>学習 上の 留意 点</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習、復習、発表の準備といった、家庭での学習を徹底する。 ・ 各単元で実施する言語活動において有用な表現を習得し、活用できるようにする。 ・ 4年生で学習した文法事項、基本単語や表現を定着させ、英語の基本ルールに従って正しい英文を作れるようにする。 ・ 論理の構成や展開を工夫しながら英語を話したり書いたりできるよう、提示されている模範的な英文の構造や使用場面をよく理解し、活用できるようにする。 | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 情報 | 科目 | 情報Ⅰ | 単位数 | 2 単位 | 履修学年 | 5 年 |
|------------|--|------|-----------------------|---|------|------|-----|
| 到達目標 | 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。 | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | 【知識・技能】 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータ活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解しているかどうか。 | | | | | | |
| | 【思考・判断・表現】 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いているかどうか。 | | | | | | |
| | 【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしているかどうか。 | | | | | | |
| | 【基準】 「定期考査、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート」などを基に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用教材 | 教科書 | 東京書籍 | 「情報Ⅰ」(情Ⅰ702) | | | | |
| | 問題集 | 東京書籍 | 「ニューステップアップ 情報Ⅰ」 | | | | |
| | | 数研出版 | 「大学入学共通テスト対策 情報Ⅰ徹底演習」 | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | | |
| 1 学期 | 第1章 情報社会 ・情報とメディア ・情報社会におけるモラル・セキュリティ ・情報社会が社会に及ぼす影響 | | | 「情報」とは何かを理解する。また、情報に関する法規・制度や個人の責任、情報モラルに基づいた行動について理解する。 | | | |
| | 第2章 情報デザイン ・情報のデジタル表現 ・コミュニケーションの手段と特徴 ・情報デザイン | | | 情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進数による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。 | | | |
| 2 学期 | 第3章 プログラミング ・コンピュータのしくみ ・アルゴリズムとプログラミング ・モデル化とシミュレーション | | | コンピュータのハードウェアやソフトウェアなど、基本的なしくみを理解する。 問題解決するためのアルゴリズムを考え、プログラミングの基本を理解する。また、目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、問題を適切に解決する方法を考えられるようにする。 | | | |
| | 第4章 ネットワークの活用 ・ネットワークのしくみ ・データベース ・データ分析 | | | 情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解する。また、データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識、データの収集、整理、分析する方法について理解する。 | | | |
| 3 学期 | 共通テストに向けた総合演習 | | | 共通テストに対応できる実力養成 | | | |
| 学習上の留意点 | 情報社会で必要となる知識や考え方はもちろんのこと、コンピュータを使用する上でのスキルやネットワーク利用時のマナーやモラルなどを学びます。そのため、知識を蓄えるだけでなく、情報モラルに基づいた行動が大切です。また、問題解決に対する手順や段取りを考えることも必要となるため、様々な情報を取得・収集し、取捨選択および評価・判断する能力を身に付けられるように、日頃から情報社会に関するニュースや出来事に興味を持つことも大切です。 | | | | | | |

科目の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 総合的な探究の時間 | 科目 | 総合的な探究の時間 | 単位数 | 1 単位 | 履修学年 | 5 年 |
|------------|--|----|-----------|---|------|------|-----|
| 到達目標 | <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することをできるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを活かしながら、新たな価値を創造し、より良い社会を実現しようとする態度を養う。</p> | | | | | | |
| 評価の観点・評価基準 | <p>【知識・技能】 総合的な探究の時間で習得する知識・技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されているか。</p> | | | | | | |
| | <p>【思考・判断・表現】 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられているか。</p> | | | | | | |
| | <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえているか。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | Benesse「探究ナビ」 | | | | | | |
| 1 | 1. 論文の書き方について学ぶ 2. 論文を作成する | | | <ul style="list-style-type: none"> 論文の構成や作成の手順、表記や引用の仕方等を学ぶ。 文理それぞれの学問別テーマに関する記事を読み、それに対する論文を作成する。 テーマごとにグループ内で共有して批評し合う中で、他人の文章に触れる。 進路決定に向けて視野を広げることを目的とする。 | | | |
| 2 | 3. 興味のある研究テーマを決定する 4. テーマ研究を行う | | | <ul style="list-style-type: none"> 興味のある分野の先行研究を調べ、研究テーマを設定する。 進路決定を経て、志望をより一層固めることを目的とする。 | | | |
| 3 | 5. 論文を作成する | | | <ul style="list-style-type: none"> 論文の構成を踏まえ、研究したことをまとめる。 大学を見据える | | | |
| 学習上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付ける力を養う。 課題の中にある具体的な問題について情報を収集する手段を学ぶ。 情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出しながら問題の解決に取り組む。 明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。 | | | | | | |

特別活動の年間授業計画（シラバス）

| 教科 | 特別活動 | 内容 | ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事 | 単位数 | 1 単位 | 履修学年 | 第5学年 |
|----------------------------|--|----|---|-----|---|------|------|
| 到達 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中堅学年としての責任ある行動を自覚する。 ・ 進路目標を早期に設定させ自立心を育成する。 ・ 学校生活の充実を図り、健康な心身や態度を育成する。 | | | | | | |
| 評価 の観 点・ 評価 基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・ 活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。 | | | | | | |
| 学期 | 指 導 内 容 等 | | | | | | |
| | ホームルーム活動 | | 生徒会活動 | | 学校行事 | | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中堅学年の自覚と高校生活のあり方について考えさせ、生徒会活動・部活動に積極的に参加できるよう指導する。 ・ 学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・ 学年ロング | | 新入生対面式 クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動 | | 始業式 体育祭 中間考査 期末考査 終業式 | | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・ 校外宿泊学習を有意義なものにし、クラスの団結のために意識の高揚を図る。 ・ 学年ロング | | 文化祭 生徒会役員改選 委員会活動 ピンクシャツ運動 | | 始業式 避難訓練 文化祭 校外宿泊学習 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式 | | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 一年間を反省し、次年度の心がまえについて考えさせる。 ・ 自分の夢や生き方について考えさせる。 ・ 学年ロング | | クラスマッチ 委員会活動 | | 始業式 校内人権学習 学年末考査 終業式 | | |
| 学習 上の 留意 点 | さまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育んでいくことを期待する。 | | | | | | |